

1. 交流部門報告 (2019年4月～2020年3月)

バハウ サイモン ピーター
副島 健治

1 はじめに

富山大学留学生センター(1999年4月1日設置)が発展的に解消して、2013年10月1日に国際交流センターと名称を変え、従前の留学生センターの富山大学に在籍する外国人留学生に対する日本語教育、日本での生活と修学に関わる指導に加えて、外国人留学生と日本人学生との交流、地域との交流、富山大学の学生を海外に送り出すことなど、その役割や機能、特に専任教員の業務は大きく拡大した。そして、2018年4月の改革によって、現在の「国際機構」となり現在に至っている。

本報では、2019年4月～2020年3月における交流部門に関わる報告をする。

2 外国人留学生に対する修学・研究上、生活上及び異文化適応上の指導・助言、および富山大学の学生の海外留学にかかる支援

後期は教員の異動等があり実施できなかったが、前期においてはコンサルテーションアワーを毎週火曜日と木曜日に設定し、富山大学で学ぶ外国人留学生、海外留学を目指す学生への指導・助言を機構教員が行った。また、設定した日以外においても、学生の事情を考慮し相談を受けた。相談内容によって、必要があれば、各学部、留学支援課や学生支援課の「学生なんでも相談窓口」等と連携して対処した。以下、実施した実績を記す

相談者数は55人で、面談の件数はのべ125件であった。125件の内訳は、外国人留学生に対する指導・助言(30件)、日本人学生に対する指導・助言(90件)、その他(富山大学教職員、卒業生、地域住民等から)の相談への指導・助言(5件)であった。

海外留学相談については、機構棟1階の「談話室」に資料を置いて海外留学を希望する学生に情報の提供を行うとともに、海外への留学を希望する学生の相談にのっている。

海外留学を希望する学生の相談における主な希望留学先は、アメリカ、カナダ、イギリス、オーストラリア、ニュージーランド、アイルランド、フィンランド、スイス、フランス、オランダ、ブルガリア、ポーランド、ハンガリー、タイ、フィリピン、マレーシア、韓国、台湾、中国、等であった。

相談者の内訳は以下の通りである。

相談者数：55人

(内訳) 人文学部(14人)、人間発達科学部(5人)、経済学部(6人)、理学部(11人)、工学部(8人)、都市デザイン学部(6人)、理工学教育部(2人)、医学薬学教育部(3人)

3 異文化間理解教育にかかる活動および外国人留学生と日本人学生の交流推進にかかる活動

(1) スタディ・エクスカージョン

国際機構主催で、毎学期、日本文化あるいは富山の文化への理解を深めるとともに外国人留学生と日本人学生との交流をはかる目的で、県内の文化施設等を見学するスタディ・エクスカージョンや訪問等を実施している。訪問先へは教員が引率した。富山市民俗民芸村の施設見学では、ボランティアの方お二人の案内(説明)を受けることができた。2019年度は、ライデン大学からの短期留学生のための活動を複数回実施した。

5月17日（金）のスタディ・エクスカージョン実施後にアンケートを実施したが、アンケートの結果を見ると、「とても楽しかった」「また参加したい」などの感想が多く、「不満」と答えた者はゼロであった。また「他にいきたいところ」として立山、合掌造り、黒部ダムなど富山を代表するところを提案する意見も見られた。

2019年度は事情により前期にのみ実施した。

<実施日・見学場所>

2019年4月24日（水） 天気：雨
 となみチューリップフェア会場
 移動手段：チャーターバス

<参加者数>

ライデン大学からの短期留学生 10人
 教職員 3人
 合計：13人



2019年4月24日（水）
 （となみチューリップフェア会場にて）

<実施日・見学場所>

2019年5月17日（金） 天気：晴れ
 富山市民俗民芸村
 移動手段：徒歩

<参加者数>

外国人留学生 2人
 日本人学生 5人
 教職員 2人
 合計：9人



2019年5月17日（金）
 （富山市民俗民芸村にて）

<実施日・見学場所>

2019年5月29日（水） 天気：晴れ
 富山市役所：富山市長表敬
 富山ガラス工房：制作体験
 移動手段：富山ガラス工房のバス

<参加者数>

ライデン大学からの短期留学生 8人
 教職員 4人
 合計：12人



2019年5月29日（金）
 （富山ガラス工房にて制作体験）

<実施日・見学場所>

2019年6月19日(水) 天気: 晴れ
本学高岡キャンパス(和紙工芸制作, 学生交流)
移動手段: 大学シャトルバス

<参加者数>

ライデン大学からの短期留学生 3人
教職員 1人
合計: 4人



2019年6月19日(水)
(富山大学高岡キャンパスにて)

<実施日・見学場所>

2019年6月26日(水) 天気: 晴れ
人間発達科学部附属小学校訪問
移動手段: 徒歩

<参加者数>

外国人留学生 14人
教職員 1人
合計: 15人



2019年6月19日(水)
(富山大学附属小学校にて)

(2) ホームビジットとホームステイ

国際機構では、日本語研修コースで学ぶ研修留学生を対象として、異文化体験学習の一環として、日本の家庭に滞在するホームビジット(日帰り)またはホームステイ(1泊2日)を実施している。2019年度は、日本語研修コースの研修留学生がいなかったため実施しなかった。

(3) 外国人留学生と日本人学生の交流のためのパーティー

国際機構棟1階の談話室は外国人留学生と日本人学生が休み時間に昼食を食べながら語り合うなど、日常的な交流の場となっている。加えて、外国人留学生のサポートを活動の目的とする大学の学生サークル「パートナーズ」(後掲)が、日本人学生と留学生との交流のために下のような「交流会」を企画し実施した。

<日時・参加者数>

2019年4月24日(水)	ウエルカムパーティー	参加者30名
2019年7月3日(水)	ウェアウエルパーティー	参加者45名
2019年10月30日(水)	ウエルカムパーティー&ハローウィンパーティー	参加者40名
2019年12月18日(水)	クリスマスパーティー	参加者35名

4 関係団体との連携と協力

(1) 地域における各種行事への協力

県内外で行われている政府や自治体、その他の公的機関等が実施する会議、行事等において、講演や会議出席などの協力の要請等があった場合は、教員あるいは留学生が協力をしている。

2019年度国際機構教員が直接参加した主な外部団体の行事

国際交流行事	期日	主催団体	内容
高岡市国際交流協会総会	5月25日(土)	高岡市国際交流協会	講演
内閣府「会議北方領土教育の加速のためのITCコンテンツの提言」有識者会議	11月2日(土) 2020年 2月11日(火)	内閣府/日本教育新聞社	会議

学生の参加協力した国際交流団体および行事内容については、本誌の「2019年度外国人留学生と地域との交流状況」を参照されたい。

(2) 関係団体等との連携

国際機構と関係諸団体との連携と協力の関係は大変重要であり、そのような意味において、必要に応じて適宜情報交換している。

5 各種情報の提供

全学の留学生を対象に、留学生活に関わる情報を提供し、地域の交流団体等が主催する行事等の案内を国際機構棟1階の談話室に掲示している。

6 オリエンテーション

(1) 新規来日新入留学生のためのオリエンテーション

学部、総合情報基盤センター、国際部留学支援課、学務部学生支援課、キャリアサポートセンター等の協力により、各学部のオリエンテーションとは別に、新規来日留学生のためのオリエンテーションを実施した。学部新入留学生だけではなく、大学院留学生、さらに在学中で過去に本オリエンテーションに参加していない外国人留学生も対象とした。

[前期]

<実施日時・場所>

日時：2019年4月2日(火) 9:30～(部局ごとに終了)

場所：(五福キャンパス) 共通教育棟D11教室

(杉谷キャンパス) 看護学科研究棟11教室

(高岡キャンパス) B1棟116教室

<対象者>

2019年4月入学新入外国人留学生(非正規生含む全員)および在学中で、過去にオリエンテーションに参加していない外国人留学生

※ただし、過去にオリエンテーションに参加した学生(内部進学者等)を除く。

<参加者>

学部生： 33人(うち17人は非正規生)

大学院生： 27人(うち2人は非正規生)

計： 60人

<オリエンテーションの主な内容>

<全体> 9:30～10:50

- 1) 生活上の留意事項について (国際機構)
- 2) コンピュータ・ネットワークの不正利用, 知的財産等の取扱いについて
(総合情報基盤センター)
- 3) 学生なんでも相談窓口について (学生支援センター)
- 4) 就職支援について (学務部就職支援課)
- 5) 授業料納入, 授業料免除制度, 学研災等について (学務部学生支援課)
- 6) 各種奨学金, 国民健康保険料補助申請について (国際部留学支援課)
- 7) その他

<学部ごと> 11:00～12:00 (杉谷キャンパを除く)

[後期]

<実施日時・場所>

日時: 2019年10月9日(水) 16:30～(部局ごとに終了)

場所: (五福キャンパス) 共通教育棟D 11

(杉谷キャンパス) 看護学科研究棟 11 教室

<対象者>

2019年10月入学新入外国人留学生(非正規生含む全員) 在学学生で, 過去にオリエンテーションに参加していない外国人留学生

※ただし, 過去にオリエンテーションに参加した学生(内部進学者等)を除く。

<参加者>

学 部 生: 43人(うち39人は非正規生)

大学院生: 26人(うち20人は非正規生)

計: 69人

<オリエンテーションの主な内容>

内容は前期のオリエンテーションとほぼ同様。

(2) 学部新入生のための時間割作成オリエンテーション

入学後間もない学部新入留学生のために, 時間割作成の支援として, 学部ごとの先輩の留学生が各新入留学生に履修の仕方を個別にアドバイスするという形式でオリエンテーションを実施した。

<実施日・場所>

2019年4月4日(木) 15:00～16:30 共通教育棟1階C11教室

<対象者>

学部に新入学した留学生

<参加者数>

新入留学生 11人, 協力した先輩留学生 12人 (計: 23人)

7 富山大学の学生のグローバル人材育成にかかる活動

(1) 人間発達科学部の専門科目「国際交流活動論」の実施

2016年度, 2017年度 2018年度に続き, 2019年度も後期において人間発達科学部の専門科目「国際交流活動論」(コーディネータ: 人間発達科学部 橋爪和夫教授)の講義を国際機構の教員が担当した。時期は7月10日(説明会)～8月7日の毎週水曜日と8月9日(金)の計15コマの集中講義を行なった。

講義内容は平成31年度のシラバスに詳しいが, いずれもグローバル人材育成に視点を置いた「日本

(語)文化」「留学」「異文化理解」をキーワードにしたものであった。特に受講者は卒業後、初等・中等教育に携わる可能性のある学生が多かったため、昨今の教育現場に外国人子弟が少なくないという状況を鑑みて、日本語教育の視点から講義する部分も多かった。

また、1コマを使って受講生と留学生の交流活動も行ない、さらにもう1コマを使って授業の一環として、JICA(国際協力機構)富山デスクの国際協力推進員の方による講演をしていただいたが、受講生にとって大いに刺激になった。講演の部分は1つの国際交流セミナーと位置づけ公開授業とした。

「国際交流活動論」の受講者数(全員が人間発達科学部の学生)および内訳は以下の通りである。

学年：4年生(1人)、3年生(3人)、2年生(9人) 計：13人

(2) 国際機構主催国際交流セミナーの開催

2019年度においては、富山大学の学生のグローバルマインドの育成を目的として、2人の講師を招いて、以下のようなセミナーを実施した。

1. テーマ：“グローバルマインドの育成のために”
2. 趣旨：戦後最悪と言われる日韓関係を見据え、韓国と日本の両方の理解者として、日本と韓国の「空気」についてお話しいただき、また、今日の日本社会がすでに「多様性」の社会であることから、新しい「ダイバーシティ」というものの見方、考え方について専門家の話を聞き学ぶ。
3. 主催：富山大学国際機構
4. 協力：NGO ダイバーシティとやま
5. 対象：テーマに関心を持つ富山大学の学生(留学生を含む)、教職員。※学外からの参加も可。
6. 日時：2020年2月12日(水)14:00～16:30,
7. 場所：富山大学国際機構棟2階 講義室3
8. セミナー内容：

【第1部】14:00～15:00

講演(1)“韓国の空気、日本の空気”

南相英氏

(元・延世大学校語学堂講師、木工芸家)

【第2部】15:05～16:05

講演(2)“ダイバーシティ”というものの見方、考え方

宮田妙子氏

(NGO ダイバーシティとやま代表、特定非営利活動法人(NPO)富山国際学院理事長)

※ 第2部に引き続き、質疑応答 16:00 終了

9. 使用言語：日本語

10. コーディネータ：富山大学国際機構教授 副島健治

会場は国際機構棟2階の小規模の教室であったが、ほぼ満席であった。講演の後に質疑応答もあって、たいへん有意義なセミナーとなり、盛況であった。セミナーの様子は翌日の「北日本新聞」「北陸中日新聞」に記事が掲載された。

国際交流セミナー
グローバルマインド育成のために

2020年2月12日(水) 14:00～16:30
富山大学 国際機構棟2階 講義室3

第1部 “韓国の空気、日本の空気” 講師 南相英氏
元・延世大学校語学堂(ソウル特別市)講師、木工芸家

第2部 “ダイバーシティというものの見方、考え方” 講師 宮田妙子氏
NGOダイバーシティとやま代表、特定非営利活動法人(NPO)富山国際学院理事長

今、世界の潮流は Diversity
昨今の日本を取り巻く国際情勢は急速を深めており、韓国韓国との関係は戦後最悪とさえ言われます。このような中、長年韓国の大学で勉強をとり韓国社会を学んでこられた講師に、韓国と日本の両方の理解者として、そして韓国に生きる生活者として、その立ち位置を機軸とする視座から日本と韓国の「空気」についてお話しいただきます。

また、今日の日本社会は、外国人労働者受け入れ拡大などの潮を引くまでもなく、すでに「多様性」の社会そのものであり、それは今後さらに深化していくと思われまます。例えば、2019年ワールドカップ日本大会の日本代表チームの“ワゴン”の精神は多くの人々に感動を与えました。そしてその代表チームのメンバー構成には驚きと感服したように、「日本・日本人」というような既成の概念はこれまでと異なる意味を内包しています。脱皮した新しいものの見方、考え方がいかに求められていると云えるでしょう。このような背景において、「ダイバーシティ」というものの見方、考え方について講師にお話しいただきます。

【対象】 富山大学の学生(留学生を含む)、教職員、学外からの参加も可。
【使用言語】 日本語
【コーディネータ】 富山大学国際機構教授 副島健治
【事前申込み】 参加をご希望の方は、以下のEメールアドレスへ氏名・所属等をご記入の上、事前に申込みをお願いいたします。
申し込み先: cler@adm.u-toyama.ac.jp
【問い合わせ先】 富山大学 国際機構 事務局
TEL/Fax: 076-445-6106
主催：富山大学国際機構 協力：NGOダイバーシティとやま

セミナーのチラシ(ポスター)



2020年2月12日(水)
国際交流セミナー

8 その他

(1) 国際交流の学生団体への助言

富山大学の国際交流の学生団体（名称「Partners」）の活動への助言を行った。

9 おわりに

国際機構は、その役割を果たすために本学の関係者をはじめとして、学外の諸団体、地域の方々の温かい理解と協力、多大な支援を頂いており、そのことについて、まずはこの誌面を借りて篤く感謝の意を表したい。

また、冒頭に述べたが、1999年4月に設置された富山大学の留学生センターが2013年10月に国際交流センターとなり、さらに2018年4月に全学的機能拡充のため国際機構と名称を改め、国際機構の長は富山大学の理事（国際担当）が直接担うようになった。留学生センターと呼ばれていた時期の従来の役割から全学的意味においての大学の国際戦略の役割を担うものとして位置付けられた。国際機構に課せられたミッションは大変重いと言えるが、その役割を果たすための課題も見えてきている。限られた人材と予算に向き合いながら、富山大学のグローバル化を見据え、未来に向かって全学的な見地から地道な努力をしていかなければならないといえる。